

たぐすい

TAKUSUI
No. 657

7

July, 2011

発行 財兵庫県水産振興基金

兵庫の漁業人のための情報誌



JFグループ兵庫で初めて漁船寄贈を実施(姫路市の形町オクムラポートにて)

Report **被災地へ中古漁船を寄贈 (JF姫路市)**
NEWS **各団体で総会開催**

急告 **平成23年度 水産技術センター研究発表会**

平成23年8月9日(火) 13時15分から、兵庫県水産技術センター2階大研修室で開催されます。ぜひご出席ください。

第61回 浅海増殖研究発表全国大会が開催される

JF兵庫漁連 のり共販部

浅海増殖研究中央協議会、全国海苔貝類漁業協同組合連合会共催による「第61回浅海増殖研究発表全国大会」が6月8日（水）、神戸市産業振興センターハーバーホールにて開催されました。この大会は、ノリ生産者を始めとする浅海増殖業者が研究発表を行い、知識を深めるとともに、業界に携わる人達との意見の交流を目的に、昭和26年より年に一度開催されています。

本年度の研究発表数は4題で、佐賀県1題、福岡県1題、兵庫県からは2題の発表がありました。明石市漁業組合連合会長 山本章等氏より「きれいな海から豊かな海へ～漁場再生への取り組みについて～」と題し、海域の栄養塩不足によるノリの色落ち、魚介類等の減少を問題提起し、その対策として行っている海底耕耘や下水道管理運



山本章等氏の発表風景

転、施肥、ため池のかいぼり等の取り組みについて発表がありました。

神戸市漁業協同組合研究会代表 森本 明氏より、「おいしい『須磨海苔』を求めて～品種『暁光』から『ZX-1』まで」と題し、おいしい『須磨海苔』ブランドを作り上げる為、取り組んでいる品種改良について発表されました。

研究発表終了後、特別講演として、東日本大震災に見舞

われた宮城県から、石井商店代表取締役会長 石井弘吉氏と宮城県のり養殖問題研究協議会 佐藤俊勝氏が「復興の礎—宮城県産みちのく寒流のりのために」と題して、震災の悲惨な状況や復興への思い、周囲への感謝の気持ちを語られました。

その後、研究発表の表彰が行われ、森本 明氏が農林水産大臣賞、山本章等氏が研究団体奨励賞、佐賀県・福岡県代表は水産長官賞を受賞いたしました。

最後に、浅海増殖研究中央協議会副会長理事 久米和樹氏より閉会の挨拶があり、大会は終了しました。



農林水産大臣賞を受賞された森本 明氏（左端）

「サバイバル訓練」実施！ ～香住漁港で漁業者らが訓練～

船から海中に転落した際の注意点や救助方法などを紹介する『サバイバル訓練』が6月3日、香美町香住区の香住西港で行われ、地元漁業者や香住高校海洋科学科の生徒たち約100人が参加しました。

この取り組みは、作業用救命胴衣等の正しい装着・整備方法を熟知するとともに、膨張式救命いかだの正しい操作方法や海中転落者の適切な救助方法、乗組員が非常時において生き抜くための知識を身につけることを目的に船員災害防止協会の主催で行われています。

訓練は、神戸運輸監視部 筒井課長をはじめ担当者か



ロープの講習もありました

ら、最新型の救命胴衣の紹介や、転落した際に救助を待つまでのポイントや救助方法に加え「ペットボトル等浮くものを利用し、絶対に生きるという意識を持つ」と説明がありました。この後、実際に海に飛び込み転落者を助ける訓練、自動膨張式救命いかだを海中に投下し、これに乗り込む訓練の他、救命いかだ内の機材説明や、発煙筒、落下傘式発煙筒を使用する訓練など充実した内容のものでした。

この日の訓練を機に一層海上安全に対する意識を高めて頂きたいと思います。



救命いかだを使った実習

いっぱいとれたよ! わくわく地引網大会

～岩屋の浜に子供たちの歓声が響く～

JF淡路島岩屋 青年部「岩屋はや潮会」が、地元の石屋小学校附属幼稚園の体験授業として、6月15日(水)に岩屋海水浴場で地引網大会を開催しました。

池本園長先生の指揮の元、きれいに海浜清掃を行った後、いよいよ地引網漁がスタート!海で網を仕掛ける漁師さんの姿に、園児が期待の眼差しを送ります。

使用する地引網は、全長40m。たくさん魚がとれることを願いつつ、園児・保護者に加え、青年部メンバーも一緒に網を引っばります。重たい網の中に魚が見えてくると、子ども達は大歓声!タイ・イカ・スズキ・サメ・ナマコなど生きている魚を見て、直接さわって、初めての感触を楽しんでいました。

この交流地引網大会は今年で8年目。はや潮会の山崎



力いっぱい引っ張ります

大輔会長は「漁業体験を通じて、地元を担う子ども達に魚を知ってもらい、もっと海を好きになってもらえれば。」と

語ってくれました。

今回参加した園児は約30名。地元密着の体験で、海が大好きな子どもが増えることを願います。

(JF兵庫漁連 Y, T)

たくさん魚が獲れました!



皆様、お疲れさまでした

中古漁船を被災地へ ～JF姫路市から漁船提供～

JF兵庫漁連指導部

JFグループでは、東北地方太平洋沖地震で被災した漁業者に船を送る取り組みを全国的に展開しており、この度、県下JFグループで初めて中古漁船提供が行われました。

6月20日(月)、姫路市の形町のオクムラポートのご協力により、JF姫路市准組合員 山本修平さんから寄贈された「鷺羽丸(わしゅうまる 1.5トン)」のトラック積み込み作業が、関係者約10人が見守るなか行われました。この船は、山本さんの父(故人)が所有されていたもので、この度の震災支援活動に際し「被災地復興に役立てれば」と寄贈を申し出られました。船を積載したトラックはすぐに出発し、翌21日には茨城県日立市のJF河原子所属 佐藤洋一さんに届けられました。

現在、県内で約40隻の漁船の提供申し出を頂いているものの、被災地の受入体制が未だ整っていないなど、漁船提供までに時間が掛る現状ではありますが、今後も復興の一助となるべく働きかけていきます。

今回の「鷺羽丸」の輸送にあたっては、JF姫路市、オクムラポート、ヤンマー(株)等からの多大なるご協力を頂きました。誌面を借りて厚く御礼申し上げます。



慎重な作業で積み込みます



無事積載し被災地へと運ばれました

浮標 (八寸玉) を被災地の漁業者へ ～兵庫のノリ生産者から漁具提供～

兵庫のノリ生産者が、今回の震災で甚大な被害を受けた宮城県の漁業者へ漁具の提供を行いました。

これは、JFみやぎの漁業者から、海苔養殖を通して繋がりのあるJF森へ、養殖で使用する浮標 (八寸玉) を1,500個ほど調達してもらいたいとの要請があり、同JFが中心となりJF一宮町、JF西二見が協力し、約2,200個の浮標が寄せられました。

積み込みは、7月4日 (月) 淡路市の森漁港で青年部員ら35名が集まり作業を行いました。配送はJF兵庫漁連と運



次々と積み込まれる「八寸玉」



また一つ、「兵庫の気持ち」が被災地に…

送会社 (姫路合同貨物自動車株) が協力して行い、翌日にはJFみやぎ 塩釜第一支所に到着しました。

作業に立ち会った森 正安副組合長 (JF森) は「復興に向けて少しでも役に立てれば」と述べられました。現状では、震災の影響で浮標をはじめロープ類も品薄状態が続ぎ、被災地の漁業者も調達するのに大変な苦労をしている模様です。こうした状況のなか、次々と積み込まれた浮標は、兵庫のノリ生産者の善意として被災地に届けられました。今後の様々な支援が、被災地の一日も早い復興の一助となりますように…。

JF神戸市「塩屋漁港 大漁まつり」で被災地支援活動 ～「売上金の一部を義捐金に」と代表3名が寄託～



山田組合長に義捐金を手渡す塩屋水産研究会のメンバー (左から山田組合長、長原副会長、川畑会計担当、西村会長)

JF神戸市塩屋水産研究会・女性部は、去る6月19日 (日) 神戸市 塩屋漁港内で「塩屋漁港 大漁まつり」を開催しました。イベント開催にあたり、同水産研究会・女性部は売上金の一部を東北地方太平洋沖地震の義捐金とし同時に募金活動も展開、あわせて42,682円の義捐金を同JF 山田隆義組合長に寄託しました。

義捐金贈呈式は、6月21日 (火) JF神戸市組合長室にて行われ、塩屋水産研究会を代表して西村精作会長、長

原浩一副会長、川畑卓司会計の3名が出席、山田組合長に東北地方太平洋沖地震JFグループ兵庫支援本部に届けてもらうよう依頼しました。西村会長は「被災者のために有効に使って頂きたい」と述べられ、山田組合長は「お気持ちは確かに受け取りました。震災後3カ月経った今、義捐金活動がなされたことに意義がある。」と謝意を示されました。

なお、「塩屋漁港 大漁まつり」は今年で4年目を迎えるイベントで、組合員による鮮魚販売、漁協の加工品販売に加え、女性部のタコから揚げ販売や子供向けのタッチプールも設置、毎年約7～800人の来場者があるイベントです。阪神淡路大震災を経験した皆様からの温かい支援がまた一つ被災地へ届けられます。

来場者で賑わう「塩屋漁港 大漁まつり」 (写真は過去のイベントの様子)



JF兵庫信漁連・JFぎよさい兵庫 合同通常総会

兵庫県は業界のリーダーという自負を持とう

兵庫県信用漁業協同組合連合会

兵庫県信用漁業協同組合連合会は、去る6月28日（火）兵庫県水産会館でJFぎよさい兵庫との合同による平成23年度通常総会を開催しました。

冒頭、挨拶に立った山田峰人会長は、来賓及び出席者への謝辞を述べた後「このたびの東日本大震災に対する本県からの支援及び募金活動は予想を上回る成果を挙げ、被災地の大きな支えとなっており、本県の系統人としての団結力と底力を示すものと評価されている。



本県の漁業環境も他県と同様に厳しい状況下にあるが、兵庫県は業界のリーダーという自負を持ち頑張っていく必要がある。」と挨拶しました。



引き続き、JF西二見 山本章等組合長を議長に選出し議事に入り、平成22年度の事業報告では、前年度を下回ったものの12百万円の当期剰余金を確保したこと、「浜の暮らしを守る信頼の金融」を掲げての平成23年度事業計画の設定の他、全議案は原案どおり承認され、無事終了いたしました。

更なる加入推進に一丸となって

兵庫県漁業共済組合

去る6月28日（火）兵庫県漁業共済組合はJF兵庫信漁連との合同で通常総会を開催しました。

上村廣一組合長は開会挨拶で、まず、各組合員並びに各関係団体へ事業運営に対する協力への謝意を表したあと、東日本大震災の発生を教訓に、不慮の事故に対応できる体制構築の必要性を謳い、本年4月から実施の「収入安定対策事業」も加わり、より加入しやすい仕組みになった。更なる加入推進に役職員一同一丸となって努力すると述べました。

議事は、平成22年度の事業報告をはじめ、平成23年度事業計画、共済規程の一部変更等が上程されました。

事業報告では、平成22年度の加入実績は206億7千万円で、加入計画・前年実績ともに上回る結果となり、支払関係では前年度より約

2億円多い、5億9千万円の支払となっており、事業収支・管理収支の総合で4千万円の黒字を計上できることとなったことが報告されました。

全ての議案は原案通り可決決定され、総会は閉会しました。



“厳しい時代” 協会の役割さらに重要

兵庫県漁業信用基金協会

兵庫県漁業信用基金協会は、去る6月3日（木）明石市内のホテルにて平成23年度通常総会を開催しました。会員並びに関係団体より多数の皆様にご出席いただき無事全ての議案が可決決定されました。なお、本年度は役員改選の年であり、新役員16名が選任され、

理事長に再任された吉岡修一氏は「基金協会の役割を果たすべく役職員一同いっそうの努力をはかってまいります。」と挨拶。新役員の任期は本年7月1日～平成26年6月30日までの3年間です。今後ともご支援ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



準備金などで財源確保

～東日本大震災への対応報告～

共水連兵庫県事務所

去る6月9日（木）明石市内のホテルにおいて平成23年度兵庫県JF共済推進本部（共水連）の通常総会が開催されました。

吉岡修一推進本部長が議長となり議事進行の下、平成22年度活動報告、平成23年度活動計画について審議され全て原案どおり承認されました。

東日本大震災における共済金の支払見込額について、損害共済系で150億円、生命共済系で90億円、合計で240億円の支払見込であることに加えて、支払財源については再保険金による回収、異常危険準備金等により十分に対応が可能であることも合わせて報告されました。

最後に山田 隆義 副本部長より閉会挨拶があり、「会員皆様と共にJF共済を育てていきたいと考えていますので契約の加入促進にご協力を賜りたい」と述べられ総会は閉会となりました。



将来の災害に備えた 対策が必要

兵庫県内海漁船保険組合

去る6月8日（水）神戸市内のホテルにおいて当組合平成23年度通常総代会が開催されました。

開会にあたり山田隆義組合長は「皆様のご理解とご協力で、今期も剰余金を計上でき、お陰様で無事戻金、漁協へ協力報奨金など還元できる。又、再保険先の漁船保険中央会が保有する準備金の一部は各県に還元するよう理事会で意見具申したが、3月11日 東日本大震災が発生しその方策も頓挫してしまった。東日本大震災では多くの犠牲者と共に漁船にも甚大な被害が発生した。兵庫県で“東南海・南海地震”が30年以内に発生する確率は70%といわれて

いる。当組合は災害時にいち早く漁業に復帰していただくため、保険金早期支払いを心がけたい。そのための資金を予め蓄えておきたい。」と準備金必要性を訴え、各位の一層のご協力をお願いしたいと挨拶された。

引き続き、来賓代表として、藤澤崇夫水産課長から挨拶があった後、総代 東根 壽氏（JF淡路島岩屋）が議長に選任され、平成22年度業務報告書等の承認および、平成23年度事業計画書、役員報酬額について議案審議され、いずれも全会一致で可決承認されました。



「共にがんばろう！」

～県漁青連・県女性連の合同総会にて～



全員で漁協青壮年部の歌、漁業婦人部の歌を斉唱

兵庫県漁協青壮年部連合会及び兵庫県漁協女性部連合会は、6月25日（土）明石市民ホールにて青壮年部、女性部員をはじめ、県、系統団体など来賓も含め約110名が出席のもと合同通常総会を開催しました。

両連合会ともに、平成22年度業務報告および決算、平成23年度事業計画等が審議され承認されました。また、役員の変更が行われ、漁青連は坊勢漁協水産研究会 大角生馬さんが、女性連は福良漁協女性部 森武美さんが会長に再選されました。就任のあいさつで両会長は「今後の活動がよりよいものになるよう、共に頑張りたい。」と挨拶しました。

午後からは漁青連 松岡寛芳理事による大会宣言、女性連 本多春代副会長による大会決議があり、続いて「豊かな海づくりについて」と題して兵庫県立水産技術センター 反田 實所長の講演と、「下水処理の

兵庫県漁協青壮年部連合会 兵庫県漁協女性部連合会

仕組みについて」と題して近畿大学 中西 敬講師の講演がありました。

反田所長は、瀬戸内海における赤潮の被害状況や海水の温度などを講演し、中西講師は、海岸に打ち上げられる大量の漂流ゴミ（中国語や韓国語が印字されたライター等）が、どこから流れつ

いたものか分析をした結果や、内海側にヘドロが堆積していることを「コレステロール過多」など擬人化して分かりやすく講演されました。どちらの講演も会場から笑いが起こるなど、終始和やかな雰囲気です幕を閉じました。



講演の様

本多春代さん (JF室津) が会長に再選

播磨地区漁協女性部連合会

播磨地区漁協女性部連合会は、6月15日(水) 女性部員51名、兵庫県立水産技術センターの反田所長をはじめとする来賓13名が出席し、同技術センターにて平

成23年度通常総会を開催しました。

総会では、平成22年度業務報告および決算、平成23年度事業計画等が審議、承認されました。また、任期満了による役員改選が行われ、室津漁協女性部の本多春代さんが会長に再選されました。本多会長は「料理教室や浜清掃など、地道な活動ではあるが確実に歩んでいきたい。」と挨拶しました。

続いて、「東日本大震災と播磨地域の沿岸防災のあり方」と題して、人と防災未来センター 奥村与志弘主任研究員を招いて講習会を開催いたしました。東日本大震災の被災地区での現地支援の話や、津波を伴う地震が起きた時への対処法など、大変タイムリーで有意義な講演でした。

また、記念品には「天然石けん」を配布し、女性部員はもちろん、来賓の皆様にも天然石けんの普及に取り組んで頂くよう呼びかけました。



講習会の模様

新会長に米谷 ちよのさんが就任

～研修会で放射能について学ぶ～

但馬地区漁協女性部連合会

但馬地区漁協女性部連合会は、6月16日(木) 但馬漁協柴山支所において県 但馬水産事務所をはじめ来賓8名を迎え平成23年度通常総会を開催しました。

平成22年度事業報告ならびに決算、平成23年度事業計画等上提された議案はすべて原案通り承認されました。また任期満了に伴う役員改選も行なわれました。

新しく会長に就任した、JF但馬津居山女性部 米谷ちよのさんより「みなさんの協力を得ながらがんばっていききたい」との挨拶がありました。

総会後の研修会では、神戸マリナーズ厚生会病院 榎林先生に「放射能の与える人体への影響について」、共水連兵庫県事務所 但馬支所 北支所長には「自然災害から財産

を守るために」をテーマに講演していただきました。東日本大震災の起こった後でしたのでみなさん熱心に聞いておられました。

研修会「放射能の与える人体への影響」の模様



漁業振興に一致団結

～22年度事業報告承認～

(社)播磨漁友会

社団法人播磨漁友会(井上仁会長)は6月29日(水)姫路市内のホテルで通常総会を開催し、平成22年度収支決算など3議案が諮られ、何れも原案通り全会一致で承認されました。



総会は入院加療中の井上 仁会長に代わり、松本力副会長が「東日本大震災で漁業も壊滅的被害が出ている。同業者として心が痛む。我々がしっかり働き漁業を支えたい。」と開会挨拶。次いで来賓の県水産課藤澤課長が「先の台風で千種川河口に堆積した砂25万tを利用し西播海域で砂魚礁造成事業を5カ年計画で進める。」と挨拶。この話を受けてJF兵庫漁連 山田会長は「海に砂が大切だということが行政の話として出たことは大変嬉しい。海の浄化や生物循環に砂は重要な資源で漁業の再生が懸かっている。」と期待を寄せました。さらに第7次総量規制の是非を問うこと、漁業用燃油の免税措置廃止論の撤廃など深刻な課題に触れられ「海の再生、漁業の活性化に我々は声を大に言い続けなければならない。」と挨拶された。議事はJF林崎 田沼政男組合長を議長に円滑に終了しました。

通常総会で意識あらたに!

～漁業漁村の活性に向けてJF職員の一層の頑張りを!～

播磨地区漁協職員協議会

去る6月21日(火)、播磨地区漁協職員協議会の平成23年度通常総会が、姫路市内のホテルで代議員27名(委任状8名含む)が出席し開催されました。

総会開会にあたり仲谷 宏会長(JF林崎)が挨拶、続いて、来賓を代表して姫路農林水産事務所 中村一彦水産課長、JF兵庫漁連 山口徹夫専務が漁協職員の役割と活躍に期待を込めて祝辞を述べられました。議

事は、JF林崎 仲谷代議員が議長となり、平成22年度事業報告及び収支決算並びに剰余金処分案、平成23年度事業計画及び収支予算、会費賦課額と徴収方法の3議案が審議され何れも原案通り承認されました。

漁業を取り巻く状況は厳しいですが、漁業活動の活性化が必要な今こそ、漁協職員の頑張りが期待されています。

日韓問題10年を経るも前進無し 我々は誰を頼ればいいのか?

～兵庫県機船底曳網漁業協会 総会開く～

我が国EEZ水域内での韓国漁船の違反操業問題や、日韓暫定水域の操業秩序問題など国際漁場紛争は解決の糸口すら掴めず、さらに燃油高騰、資源減少、魚価安現象など内外からの経営圧迫で但馬の機船底曳網漁業は厳しい状況にある。漁業者の自助努力の限界を超える昨今の厳しい環境が続くなか、兵庫県機船底曳網漁業協会の通常総会が去る7月1日(金)城崎町で開催され、平成22年度決算報告、同23年度事業計画など4議案が原案通り承認されました。

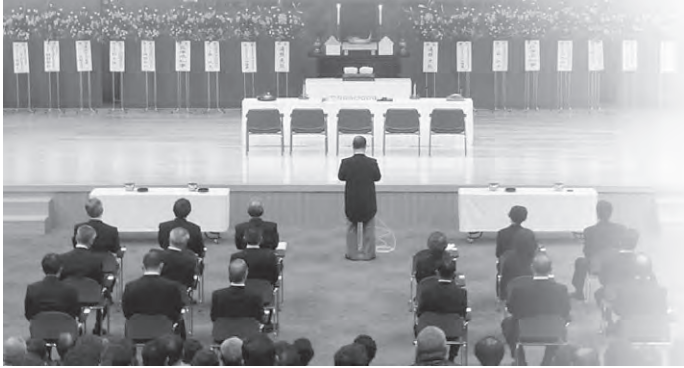
任期満了に伴う役員改選で引き続き会長を務めることになった吉岡修一氏は「マツバガニを日本一にするため何をするか。魚価対策をどうもっていくか。ミズガニ・雌ガニなど資源保護どうするか。日韓問題は国の全面的対応を求めていく…等々課題は山積しているが、受ける以上は全力を尽くしたい」と所信を述べ「引き続き皆様のご支援をお願いしたい」と挨拶された。総会のあと兵庫県漁業共済組合が「新積み立てぶらす」の説明を行い、加入促進に努めました。

第36回 兵庫県漁民物故者合同供養祭開催

6月11日（土）高野山大学松下講堂並びに慰霊塔前において「第36回 兵庫県漁民物故者合同供養祭」が、漁業関係者ら189名の参列のもと、厳かに執り行われました。



開式にあたり、平成22年度中に物故された142柱の芳名簿が、遺族代表の阪田桂二さん（JF神戸市）と小松美栄さん（JF林崎）の手で祭壇に奉納されま



した。そして、主催者代表としてJF兵庫漁連 山田 隆義会長より「本県が全国有数の水産県として今日あるのは、ここに合祀されておられますご尊霊のご努力の賜物であり、在りし日の輝かしき業績に対し深く敬意を表しますとともに、残る我々が力を合わせて豊かな漁場を取り戻し、次世代に引き継ぐことを誓います。」として在天の諸霊にご加護を願われました。

続いて来賓を代表して兵庫県知事（北川 稔男 農政企画局長 代読）、JF全漁連会長（岩山 裕史 購買事業部長 代読）から追悼のことばをいただきました。

その後、読経のながれるなか、主催者、来賓、ご遺族、一般参列者の順に焼香が行われ、JF兵庫女性連 森 武美会長から全参列者に御礼が述べられ、供養祭は厳粛のうちに滞りなく終了しました。

これまでに合祀されたご尊霊は今回の142柱を含め併せて11,512柱となりました。心からご冥福をお祈りいたします。



明石産水産物の美味しさをPR

明石漁業協同組合連合会

6月18日（土）～19日（日）、明石公園西芝生広場にて「あかしスタジアムマルシェ」が開催され、明石市内の漁業団体が明石産水産物の美味しさや魅力をPRしました。

「あかしスタジアムマルシェ」は地域振興や観光振興を実現するために開催される今年で3年目のイベントで、老若男女を問わずに楽しむことができます。

18日はJF西二見の青年部が「タコの唐揚げ」を販売しました。19日は明石市漁業組合連合会が「タコ、アナゴ、干しダイの炭火焼」を、またJF林崎 屋市委員会が「アナゴの炭火焼、タコの唐揚げ」を販売しました。

18日は天候に恵まれず、あいにくの雨模様で客足が伸びませんでした。翌19日は天候も回復し、多くの方々に地元の水産物を味わっていただくことができました。「すごく美味しい!」、「歯ごたえが違う!」、「さすが漁師の味やなあ〜!」など賞賛の声が次々に挙がり、長蛇の列ができました。そして、閉店時間を待つことなく、早々に完売御礼となりました。



明石タコやアナゴ等、明石の海の幸がいっぱい!



行列の出来る盛況ぶり!

兵庫県水産振興議員連盟と JF組合長 懇談会を開催

燃油価格の高騰、魚価の低迷等に加え、内海ではノリの色落ち等の漁場環境の悪化や、日本海では、韓国漁船の不法操業等により極めて厳しい環境にあり、我々漁業者だけでは解決できない課題が山積している昨今、水産業の振興を図り、漁家経営安定の一助とすることを目的に、6月16日（木）神戸市 ラッセホールにて、兵庫県水産振興議員連盟の議員とJF組合長懇談会が開催されました。

この懇談会は、第1部に研修会、第2部に意見交換会、第3部は懇談会の3部構成で開催されました。

第1部では「豊かな瀬戸内海に向けての取組について」として兵庫県立水産技術センター所長 反田 實氏、続いて「下水処理の仕組みについて」として様々な大学で講師を務められ、JF兵庫漁連 環境アドバイザーでもある中西 敬氏による講演があり、県会議員とJF組合長ら約100名が参加研修しました。

第2部は、県会議員とJF組合長との意見

意見発表する
JF浜坂町 川越組合長



意見発表する
JF一宮町 社領組合長

交換が行われました。これに先立ち、但馬海区からJF浜坂町 川越組合長、内海海区からJF一宮町 社領組合長が、それぞれの海区が抱える問題について話題提供があり、様々な意見交換が行われました。最後には、「豊かで美しい瀬戸内海を取り戻すため“瀬戸内海再生法（仮称）”の早期整備、また、水質総量削減制度の緊急措置」、並びに「漁業用燃油に係る税制措置」に関する請願書を兵庫県議会議長宛に提出したこと、また「豊かな海づくりに係る要望書」を兵庫県農政環境部長に提出したことが報告されました。さらに、「豊かな海」再生に向けた取り組みとして、下水における栄養塩管理運転実現を目指すこととし、議員連盟の皆さんの力強いバックアップのもと、各JF組合長より、それぞれの市並びに町の首長に対して要望活動を行うこととし、海の再生のためJFグループが総力で取り組んでいくことで賛同を得ました。

続いて懇談会は、地区毎にテーブルを囲み、地元の先生方とJF組合長が膝を交えて情報交換が行われ、盛会裡のうちに閉会となりました。

命を守る運動「海上安全講習会」

～ 淡路地区でも順次開催中～

JF兵庫漁連・共水連兵庫県事務所・兵庫県内海漁船保険組合・(公財)ひょうご豊かな海づくり協会・(財)兵庫県水産振興基金の系統5団体では、開催の要望のあったJFと共に「海上安全講習会」を各地で開催しています。5月から6月にかけてはJF由良、JF由良町中央、JF富島で、海難事故事例の紹介やライフジャケット着用推進等の内容の講習会を開催しました。

開催を希望されるJFは、JF兵庫漁連 指導部 (TEL 078 - 940 - 8013) まで。



JF由良 (5月7日開催)



JF由良町中央 (5月21日開催)



JF富島 (6月21日開催)

全国海難防止強調運動が実施されます

平成23年7月16日から31日の間、「平成23年度全国海難防止強調運動」が実施されます。この運動は「海難ゼロへの願い」をスローガンとして、全国海難防止強調運動実行委員会が主体となり、(社)日本海難防止協会・(財)海上保安協会・海上保安庁・JF全漁連など様々な関係団体が一丸となり、海難事故防止に向けた活動を行うものです。船舶海難事故では、「船同士の衝突事故」が最

も多い事故種であり、その主因は航行(操業)中の他船への見張り不十分であると報告されています。衝突事故を防ぐためには、他船への見張りを徹底することが重要です。特に、操業中は、デッキでの作業中であっても常に周辺に注意を払う必要があります。また、自船がどのような状態であるか、形象物・灯火・旗等を使って、自主的に周りの船舶に示さなければなりません。

皆さんへのお願い

間違った灯火・形象物を示せば、他船へは本来とは違う情報を与えることとなり、重大事故に繋がる恐れがあるばかりか、万が一、事故が発生した場合においても、その責任を問われることがあります。この運動期間中に、是非、安全に対する意識を高め、装備や機器のチェックをしましょう。

○ 防水・GPS機能付携帯電話の携行

○ ライフジャケット着用

☆ 海のもしもは118番

JA兵庫みらいが 県内初の女性大学を開校

JA兵庫みらいは5月18日、今年度より新たに開校する女性大学の入学式を同JA本店で行った。管内の女性60人が入学。文化や福祉などの生活に関わるさまざまな分野について楽しく学んでいく。

女性大学は同JAや同JA女性会が、「学びの場」や「人づくりの場」として、地域に根ざした活動を広めていくため、県内JAで初めて開校。ひまわり（フレッシュコース）とすみれ（エンジョイコース）の2コースあり、いずれも「食と農」や「健康と美容」などをテーマに、年間計10回のカリキュラムを組む。

入学式では、同大学の学長を務める後藤健次郎代表理事組合長が「いろいろなスキルを磨き、受講生同士交流を深めながら多くの仲間をつくってほしい」と呼び掛けた。

閉会後には、第1回目のプランター栽培講座を開き、JA職員が作業工程やポイントを説明した後、受講生らはプランターに土を入れ、ミニチンゲンサイ「シャオパオ」の種をまいた。受講生は「プランター栽培は初めてだったけど、思っていたよりも手軽にできた。これからいろいろな講座もあるので楽しみ」と笑顔で話していた。



プランターに種をまく受講生

「まぐろ解体企画」を 実施しました

甲南大学生協では、5月11日（水）に生協の食堂・レストランにて「まぐろ解体企画」を行いました。この取り組みは、甲南大生協における「食」についての現状と問題点を昨年より理事会で議論し提起された10の課題を受けたものです。

大学生の食生活で困っていることのアンケート結果では「食費の負担が大きいこと」「バランスが取れないこと」の2項目で約50%近くを占め、節約したい品目として「食費」と答えている学生が70%にもぼります。結果、1日3食をカップ麺だけで過ごす学生が少なくありません。一方、食堂のピークの混雑は席数不足もあり今の平成生まれの組合員には我慢できない状況で、徐々に食堂離れがおこっています。約6割の人が昼食を生協のコンビニ商品ですませています。

今回のインパクトのある「まぐろ解体企画」では、変化・組み合わせ・選択できる品揃えのある食堂、ゆっくりとバランスのとれた食事を楽しんでもらえるフルサービスレストランをクローズアップさせて、健康安全安心のアピールをしたいと思います。企画の内容は、和歌山県勝浦港でとれたマグロ（20kg 2本）を目の前で解体し、メニューとして提供しました。食堂では、マグロ漬け丼380円・レストランではマグロの刺身御膳（マグロの刺身、野菜のてんぷら、お惣菜、豆ごはん、味噌汁）650円、マグロ丼セット500円で提供し、あっという間に200食が完売しました。

職人による解体の実演では、携帯で写真を撮る組合員や、友達に連絡している組合員など大好評でした。そして組合員の目が非常にワクワクしている様子がうかがえました。何より大きな声で学生さんが「生協変わったな」と言ってくれたことがスタッフの今後の励みとなりました。



旬

朝顔は江戸の贈り物 遊方子

◆江戸庶民の憧れは変化朝顔にあった。江戸の贈り物というアサガオは、俳句に詠まれ、浮世絵にも描かれ、歌舞伎《助六》には派手な衣装の《朝顔せん平》という滑稽役が劇を盛り上げ、大いに笑わせてくれる。芭蕉の句「朝顔に我は飯食うおとこかな」とあるように、庶民の間で随分と普及したようだ。早起きし、朝顔の花と一緒に朝飯を食べる。平凡ながら、好ましい悠々の生活術なのかも知れない。今、セイヨウアサガオが主流になりつつあるが、古くからの日本アサガオも見直して見ようと《暁の海》という紫系統を咲かせてみた。

◆朝顔には青色のアジア系と、空色のアフリカ系の2系統がある。通常は漏斗状の丸い形になるが、元を正せば五枚の花弁が変化したものだという。たくさん花を咲かせるには、摘芯が必要である。親蔓の芯を止め子蔓を伸ばし、これも摘むと孫蔓が伸びる。花は孫蔓に多くつくから摘芯は必須作業なのだ。茎を絶えず触っていると、生育が非常に悪くなる。これは《傾震性》と呼ばれる性質のためで、手を掛け過ぎるとストレスを生み良い結果にならず、放任しても蔓延（はびこ）り過ぎて困る。必要

な時に、ピシッと摘芯するのがよい。これは人間だって同じことで、口うるさく言うのはストレスを発生させるだけである。

◆種蒔きは八十八夜を過ぎてからが良く、八重桜が咲き終わる頃が最適といえる。春蒔き一年草は、その殆どが熱帯生まれの植物だから、温度が低いと発芽出来ないし、寒いと根付きも悪くなる。アサガオも発芽には高温を必要とする。アサガオはタネには下剤作用があり、粉末にして漢方薬として使う。タネに含まれる樹脂配糖体（ファルビチン）が、体内で加水分解されアルカリ塩に変わり、これが大腸を収縮して下痢を起こすと考えられている。昔、年貢米を取り立てに来た役人の接待に、種子を擦り込んだ酒を出し、早々に退散させたという話が残っている。使い方では怖いものになるからゴ用心ゴ用心である。

◆朝顔は秋の季語である。陰暦の秋だから今の八月初旬から十月の初めになる。咲き始めると次々と蕾をつけ、賑やかに朝を彩ってくれる。古い本に、江戸時代に詠まれた歌「銭湯の、裸に薄き月の影」とあり、此れに続けた付句が「古摺鉢にアサガオの蔓」である。摺鉢をリサイクルして花を植えた所が面白く、見方では実に洒落た器だといえる。朝顔の花に酸性雨が降ると、花が脱色されて大気汚染の程度が判断できる。環境汚染やオゾンに対し、非常に感受性が強いのである。江戸時代には考えられない事だろうと思う。



大輪田塾だより

大阪湾水先区水先人会にて開講

水先案内業務について理解を深め、大型船の操船の難しさを体験してもらおうと、6月講座は21日(火)に神戸市中央区にある大阪湾水先区水先人会にて、「水先案内業務について」と「大型船シミュレーション体験実習」の2講座を行いました。

「水先案内業務について」は大阪湾水先区水先人会・竹口会長が水先案内業務について講義を行い、「お互いの立場を理解することが安全航行につながる」と締めくくられました。続く、大型船シミュレーション体験実習では大型船が大阪湾を航行する2パターンのシミュレーションプログラムを、塾生が2人1組になり操船体験しました。

「思ったように舵が利かない」、「速度がなかなか落ちない」など皆さん苦労されていましたが、なん

とか無事に目的地まで辿り着いていました。また、大型船の死角の多さや、漁船の見えにくさなども体験でき、今後の安全運航に役に立った講座でした。



講義を行う竹口会長



大型船シミュレーター体験実習の様子

表紙の言葉



被災地へ中古漁船を寄贈

東日本大震災から4カ月が過ぎました。

流れるニュースを見て、漁業再開への道程は遠く、大変な時間と労力が必要である、と改めて実感させられる思いです。この「時間がかかる」ということを、私たちはこれからも心に留めておく必要があるでしょう。

今回の漁船寄贈は、再び「沖に出て漁業を行ってみたい」という思いが乗っています。漁業に携わる者だから分かる“漁をする”ことの充実感を再び得てみたいと思う気持ちは、被災地の仲間まで無事届けられました。